



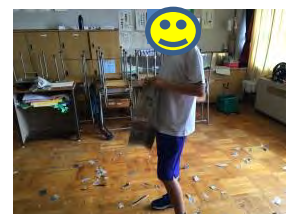
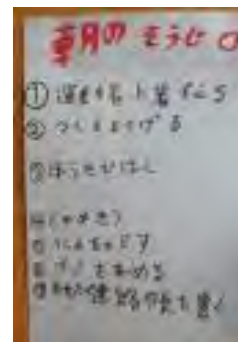
【教材・教具名】 くるりんぼう・くるりんカップ	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 小学部
<p>【対象児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手を使っての活動があまり得意でないが、左手でさいころ型のビーズを持ち、右手に持ったひもにそれを通すことができるようになってきた。 ・物を持つと投げてしまうことが多く、物を持って目的のある活動をすることが苦手である。 		
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手でお絞りをもち、絞ることができる。(指導内容表 生活科基礎的生活習慣 食事—(1段階)) 		
<p>【教材・教具の使い方】</p> <p>『くるりん棒』</p> <ol style="list-style-type: none"> ①両手でスポンジの部分を持つ。 ②スポンジを持った右手は体と反対側に、左手は自分の体の方へ回す。 ③児童の好きなイラストが、だんだんとかくれんぼしていく。  <p>『くるりんカップ』</p> <ol style="list-style-type: none"> ①左親指をカップの取っ手に引っ掛けてカップを握り、右手は蓋の部分握る。 ②左手はなるべく動かさないようにして、右手を手前の方に動かす。 ③蓋が取れると、中に入っているお楽しみのグッズが取り出せる。  <p>【工夫点】</p> <p>『くるりん棒』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が好きなキャラクターを教材に貼り、教材に目が向くようにした。 ・児童の手の大きさに合わせて握りやすく、またお絞りの布の柔らかさをイメージできるように、教材にスポンジを取り付けた。 <p>『くるりんカップ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指を引っ掛けて回すことができるので、教材から手が外れない。 ・蓋を開けると中から鈴や指人形などのお楽しみの物が出てくるので、期待感をもつことができる。 		
<p>【効果(○)・改善点(●)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○両手でお絞りを持たせるとぎゅっと握り、握った手を前後に動かすことができるようになった。 ●児童の利き手がどちらかによって、手の動かし方が変わってくる。手の動きが児童にとって無理のないもの(右手を体の向こう側に、左手は体の方へねじる動き)に対応できるようにしていく。 ●教材を握った右手が体の反対の方の向きにだけしか回らないようなものであると、お絞りを絞る動きが理解しやすかった。 		

【教材・教具名】 輪投げの輪	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 中学部
【対象生徒の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・一人で行動することが苦手で、朝の運動の際、友達と手をつないで走ろうとする。 ・簡単な問い掛けに対しては返答ができる。 ・数詞と具体物を1対1で対応させることができない。 		
【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の運動で、周回数の目標を意識して一人で走ることができるようにする。 (生活科— (健康安全 健康管理 2段階)) (保健体育科— (基本の運動 2段階)) 		
【教材・教具の使い方】 <ul style="list-style-type: none"> ・輪投げの輪8個 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">   </div> <div style="flex: 2;"> <ol style="list-style-type: none"> ① 周回数の目標が8周であることを伝えながら8個の輪を渡す。 ② 輪を左手に持ちながら走らせる。 ③ 1周走り終えるたびに、輪を1個手渡すよう声掛けする。 ④ 輪を受け取りながら走った周回数を伝える。 ⑤ 最後の輪を受け取ったら、目標が達成できたことを称賛する。 <p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に渡すときにスムーズな操作ができるように輪を使用した。 ・8個を手に持っていることから、邪魔になったり落としたりしないよう小さく薄い輪を使用した。 ・受ける際走った周回数を伝えながら、走った分の輪を見せ数詞と具体物を対応させるようにした。 </div> </div>		
【効果 (○)・改善点 (●)】 <ul style="list-style-type: none"> ○朝の運動の時間になると自分から進んで輪を持ち、走る準備をするようになった。 ○輪を持つことで目標とする周回数を意識して朝の運動に取り組むことができた。また、走った周回数、残りの周回数を目で確認できるので、時間内に走り終えることができるよう集中して走る姿が見られた。 ○一人で走ることに自信を持つことでそのほかの活動でも進んで取り組む姿が見られるようになった。 ●教師が声を掛けないと輪を渡すのを忘れてしまうことがあるので、渡すことを意識させるような手立てを工夫する ●目標の周回数を達成し輪がなくなると、友達と手をつなごうとするので、目標を段階的に上げて、一人で走り通すことを定着させる。 		

【教材・教具名】 衣服の畳み方手順表 畳み方補助シート	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 中学部
【対象生徒の実態】 <ul style="list-style-type: none"> カーテンを閉めずに着替えを始める。 脱いだ衣類をかごに入れることは理解しているが、畳まずに丸めてかごに入れることが多い。 		
【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 着替えに関する写真カードや手順カード、畳み方補助シートを使用して、教師の声掛けがなくても自分からカーテンを閉めたり、服を畳んだりできるようにする。 (指導内容表：生活科 基本的生活習慣 身の回りの整理, 着替えー3段階) 		
【教材・教具の使い方】 <ul style="list-style-type: none"> 写真カード <p>カーテンを閉めることに気付かせるための写真カードは、着替えの際、かごを手にとったらずくに気付くように、かごの一番上に置いておく。カーテンを閉めずに着替えを始めた時には、写真カードを見るよう声掛けをする。</p> <div data-bbox="877 649 1380 840" data-label="Image"> <p>【写真カード】 かごの上に置いておく</p> </div> 衣服の畳み方手順表 <p>初めは手順表を見ながら教師と一緒に衣服の畳み方に取り組む。徐々に支援を減らして一人で取り組ませる。</p> <div data-bbox="798 840 1420 884" data-label="Caption"> <p>【衣服の畳み方手順表（長袖・半袖・ズボン）】</p> </div> <div data-bbox="877 884 1340 1198" data-label="Image"> </div> 上着の畳み方補助シート <p>広げた上着の上に補助シートを置き、補助シートに合わせて畳むことで、きれいに畳むことができるようにする。</p> <div data-bbox="574 1198 925 1243" data-label="Caption"> <p>【上着の畳み方補助シート】</p> </div> <div data-bbox="175 1254 1404 1422" data-label="Image"> </div> 		
【工夫点】 <ul style="list-style-type: none"> 実際に活動している（カーテンを閉めている）写真や、生徒のジャージの写真を使用して理解しやすいようにした。 着替えの手順表は、情報量をできるだけ少なくし、視覚的にわかりやすくするため写真や矢印のみを使用した。 カーテンを閉めることに気付かせるため、写真カードは目に付きやすい大きめのサイズにし、手順表は常にかごに入れておけるようにコンパクトなサイズにするなど、大きさを工夫した。 上着の畳み方補助シートは、持ち手の部分を作り、抜き取りやすくするために角を丸くした。 		
【効果(○)・改善点(●)】 <p>○声掛けをしなくてもカーテンを閉めることができるようになった。</p> <p>●畳み方の手順表は、生徒の実態に応じていろいろなタイプを用意することで、より取り組みやすくなると思われる。 例：日めくりタイプ、順番に写真カードを取り外すタイプなど</p>		

【教材・教具名】 牛乳・ストローの目印シート	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 高等部
<p>【対象生徒の実態】</p> <p>・給食の配膳時，周りの様子や歌の絵本など，他のことが気になりなかなか係活動に取り組めない。また，取り組めても時間がかかってしまう。</p>		
<p>【ねらい】</p> <p>・写真カードや目印シートを使用して活動に見通しをもち，給食の牛乳，ストローを短い時間で配り終えることを目指す。徐々に教師の支援を減らし，少ない支援で取り組めるようにする。</p> <p style="text-align: right;">（指導内容表：生活科 手伝い・仕事，手伝い—2段階）</p>		
<p>【教材・教具の使い方】</p> <p>・写真カード 時間割ごとの活動場所や活動内容が分かる写真カードを提示し，一日の活動に見通しをもたせる。また，給食準備を始める前に写真カードを見せながら「ストロー・牛乳配り」の仕事をすることを伝える。</p> <p>・牛乳，ストローの目印シート 生徒が配膳しやすいように目印となる牛乳，ストローのシートを机の上に準備し，写真の上に置かせる。最初は声掛けしながら取り組ませ，少しずつ声掛けを減らしながら，できるだけ一人で取り組めるようにする。 （牛乳配りの際は，持ち手の付いたかごを用意して牛乳を入れ，かごを持ちながら配らせる。）</p> <p>・場の設定 活動に集中し見通しをもって取り組めるように，円形に配置した机の内側で活動を行わせる。</p> <p>【写真カード】 一日の流れを提示。給食の時間にストロー・牛乳の写真を貼っておく。</p>  <p>【牛乳・ストローの目印シート】</p>  <p>【机の配置状況】</p> 		
<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真カードは外しやすいものにし，生徒が納得できないときに外せるようにした（そういった場合には，何回か写真カードを提示し声掛けすることで納得することが多い）。 ・牛乳，ストローの写真に赤のマーカーで縁取ることで，視覚的に分かりやすいようにした。 ・牛乳の写真の部分に少し段差を付けて，はめ込むような感覚にし，取り組みやすいようにした。 <p>【効果（○）・改善点（●）】</p> <p>○仕事を理解し決められた場所に牛乳，ストローを置くことができた。</p> <p>○気持ちが安定していると，教師の声掛けがなくても仕事に取り組むことができた。</p> <p>●目印シートの段差が少ししかなかったため，はめ込む感覚はあまりつかめなかったかもしれない。（ただし，深い段差の型に牛乳をはめ込むことが，逆にストレスになる可能性もあるので，状況を見ながら進める必要がある。）</p>		

【教材・教具名】 教室掃除における場の設定や指示の工夫	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 高等部
<p>【対象生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒3名を対象とした。中学部から進級した生徒は、手先が器用な反面、障害（自閉症）に由来するこだわりの強さがあり、掃除の際も、手持ち無沙汰にしていたり、掃除用具を自分の好きなように使ったりすることがある。中学校から入学した生徒2名は、比較的意思の疎通が図りやすい反面、社会的な体験の少なさから協力して作業に取り組むことに課題が見られる。また登校後、着替えが終わっても眠そうにして机に突っ伏していたり、作業学習で、指示を聞いてもすぐに取り組むことが難しかったりするなど別な課題もある。 		
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や教師と一緒に協力して掃除をすることができるようにする。 手順を覚えて自分たちで掃除に取り組むようにする。（指導内容表：生活科 手伝い・仕事 掃除－3段階、役割 共同での作業と役割分担－3段階、日課・予定－3段階） 		
<p>【教材・教具の使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掃除の流れを示す手順書 初めは口頭で指示していたが、他の生徒の着替えなどで担任が不在になる場合もあるため、掃除の手順を生徒に書かせ、掃除の流れを自分で確認できるようにした。 モップの扱い方についての画像 生徒一名をモップの担当にした。最初、モップの掛け方を口頭や教師の示範で教えたが、自己流の掛け方が直らなかったため、正しいモップの掛け方と間違った掛け方を比較する画像を見せて説明した。 【工夫点】 掃く場所を分かりやすくする工夫 ほうきで床を掃除する際、ぬれた新聞紙をちぎって床にばらまき、どこを掃くのか視覚的に分かるようにしていった。新聞紙は徐々に少なくして、なくしていった。 ゴミを集める場所の設定 ゴミを最後に集める場所を赤いビニールテープで床に明示し、視覚的に分かりやすくした。 見通しをもたせる工夫 登校してくる前に、登校から朝の会までの朝の流れを黒板に貼っておき、その日の掃除の有無を明確にした。 		
<p>【効果（○）・改善点（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モップの扱い方については、比較画像を示すことによって理解しやすくなり、正しく掛けられるようになった。 ○生徒が自分から「掃除（をします）」と言ってくるなど、声掛けしなくても自分たちで掃除に取り組む掛かり、自分たちで進めていくことができるようになってきた。 ●取組の実態差に応じた個人ごとの仕様書を作っても良かった。 		



【教材・教具名】 襟折り教材 step 1～4	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 高等部
<p>【対象児童生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱では、自分で着替えることができるが、表裏、前後など間違えることがある。 ・物を注視せず、手元をよく見ないで作業を行うことがあり、また、手指動作が難しく、細かい作業が苦手である。 		
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替えの際、襟の正しい状態を理解し、自分で身なりを整えることができるようにする。 (指導内容表：生活科 基本的生活習慣 身なり、身だしなみー3段階) 		
<p>【教材・教具の使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャツの塗り絵 (step 1) シャツのイラストが書いてあるプリントを使い、襟の部分に色を塗ることで、襟の認識をさせる。  ・折り畳みシート (step 2) 左右のシール部分●に親指を置き、親指と人差し指で紙をつまんで折る動作を練習させる。  ・襟の部分にテープを貼ったシャツの実物 (step 3) 襟の表側と裏側に色の付いたテープを貼ったシャツをハンガーに掛けて、手元を見ながら襟を整える練習をさせる。  ・マスコット付きテープ (step 4) 首の後ろに手を回し、テープに付けたマスコットを取る練習をさせる。→ボディイメージを高めるために、首の横、首の後ろの順に、徐々にレベルを上げて段階的に練習をする。  ・練習用カッターシャツ (step 5) 練習用の実物を着用させ、鏡を見ながら襟を整える練習をさせる。 <p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・step 2 では、厚さの異なる紙を用意して折り幅を変え、厚い紙 (幅の広いもの) から段階的に指導した。 ・step 3 では、襟の表側と裏側それぞれに色の異なるテープを貼ることで、襟が整っているかどうかの判断が容易にできるようにした。 ・step 4 では、ボディイメージを高めるために、マスコットの位置を首の横から後方へと徐々に変え、取りやすさのレベルを段階的に上げるようにした。 		
<p>【効果 (○)・改善点 (●)】</p> <p>○step 2 の指導で、折るとイラストが表れるようにしたことで、苦手な操作にも楽しんで取り組めた。また、手首全体を使った粗大な動作から始め、徐々に指先を使う微細な動作を取り入れていったことで、手指を使った学習に対する苦手意識を感じることなく取り組むことができた。</p> <p>●step 5 では、鏡を使い襟の状態を確認させながら指導したが、後ろに手を回して襟をつかむことがまだ難しかった。→真後ろの部分は教師が補助し、持てる場所を生徒が持ち、折るようにした。</p>		